

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話(045)661-0166

ご挨拶

横浜市仏教連合会
 会長 都築 哲信

年々歳々花合い似けりと言いま
 すが、平成十四年を迎えて「今年
 も良い年でありますように」とは
 言えません。昨年は余りにも悪い
 ことが多すぎました。



しかし、そうした悪い出来事は
 かりに目を奪われている間に身近
 に高齢化社会という深刻な事態も
 進行しております。

昨年五月のはじめに加賀町警察
 署から寺に「Aさんを知っていま
 すか」と言う電話が入り、内容は
 檀家であるAさんが死亡したので
 関係者を知らないかと言つてです。

一人暮らしのため死亡してから半
 月ほど経って発見され、寺からの
 手紙を手掛かりに問い合わせがあり
 ました。寺としては縁者を知らな
 い旨を答えました。その後なんの
 音沙汰もないまま半年経過しまし
 たのでどのようなことになったのか担当
 の警察官に聞いたところ、犯罪性
 がないため区役所の管轄になり移

管されたとのこと。今度は中区役
 所を訪ね担当の職員より経過を聞
 いたところ、Aさんの縁者がない
 ため、ご遺体は役所関係の葬儀社
 の手配で火葬され、読経のないま
 まご遺骨は不明者の一人として横
 浜市の指定する納骨堂に一時安置
 されたそうです。

それでは当然のこと「Aさんの
 ご遺骨を寺にあるAさんの墓地に
 埋葬して供養しますから」と話を
 しますと、「それは出来ません」
 との返事です。これから先は法律
 上の処理がはつきりしないと解決
 することが出来ないそうです。

人間の寿命は人それぞれですが、
 多くの場合年々歳々と生活を続け
 ている途中で他界することが一般
 的です。従って生活の延長線上に
 ある生活費等の財産がそのままに
 なり、この処理に遺骨と共に法律
 の権限が入ります。

相続財産管理人が決められて家
 庭裁判所で審理され、その結果A
 さんの所持していた金銭等の財産
 は国庫に入り、併せてAさんのご
 遺骨も横浜市の無縁墓に合祀され
 ることとなります。しかし、寺に
 墓地のあることを役所は承知して
 いるのでどのような判断をするか
 分りません。
 Aさんのような状況の人はこれ

から() となると考えられます。元
 気に高齢者社会を過()して他界し、
 供養されないまま無縁墓に合祀さ
 れることのないように啓蒙するこ
 とも我々寺院住職の勤めでもあります。

歳末理事会報告

平成十三年十二月六日(木)の
 午後五時より、中区相生町の「筑
 葉」で、理事会が持たれた。都築
 会長の挨拶の後、林田専務理事の
 議事進行で約一時間に八項目ほど
 が協議された。

一、第二十七回涅槃会開催の件。
 泉区仏会長・永明寺・石田征史師
 が説明。平成十四年二月八日(金・
 友引)。於泉区新橋町の曹洞宗観
 音寺。講師に獅子てんや氏。最寄
 駅は相鉄いずみ野線弥生台駅下車。
 会員寺院の参加増員のため、各区
 仏会長が出欠を取りまとめて専務
 理事に提出、報告すること。

会計橋下師が涅槃会ポスター作
 成の試案と費用について説明。二
 色塗り千枚、費用は捻出できる。
 泉区仏での涅槃会に間に合わず。
 作成してみよう。デザインは役員
 会、橋下師に一任する。

程木釈尊奉讃会事務局長が奉讃
 会だよりに載せ、少しでも涅槃会
 参加者を増やすことに役に立ちた
 い。
 二、平成十四年度の総会の件。五
 月二十二日に予定した。(後日、
 五月二十一日・火曜に変更となつ
 た。)

三、秋の京都 丹波、但馬方面七ヶ
 寺巡拝報告。林田専務理事。
 四、春の参拝の場所と日時。件。

ピーエヌ観光真川氏説明。平成十
 四年六月三日(月)。東京方面の
 高幡不動と深大寺に決まる。
 五、各行事に参加者が減少してい
 る。その原因と対策を考えよう。
 各区仏の活動が報告された。保土ヶ
 谷・旭区仏の歳末街頭募金で三十
 万円も集まった。栄区仏の托鉢で
 は十八万円が集まった。

六、平成十四年の県慰霊堂奉仕の
 担当区仏と日程が発表された。
 七、顧問の遠藤弁護士の間話。
 六月に青葉・緑区仏主催の墓をめぐ
 る法律相談の講師をつとめた。
 若い人の離婚が増え、原因はドメ
 スティックヴァイオレンス(夫の
 暴力行為)や酒乱などである。
 八、その他。

○午後六時〜八時半頃まで納会。
 飲食を共にし懇親を深めた。



県慰霊堂出仕当番表

- 平成14年4月5日(金) 戸塚区
- 平成14年6月5日(水) 栄区
- 平成14年10月7日(月) 泉区
- 平成14年11月5日(木) 瀬谷区

第二十七回涅槃会厳修

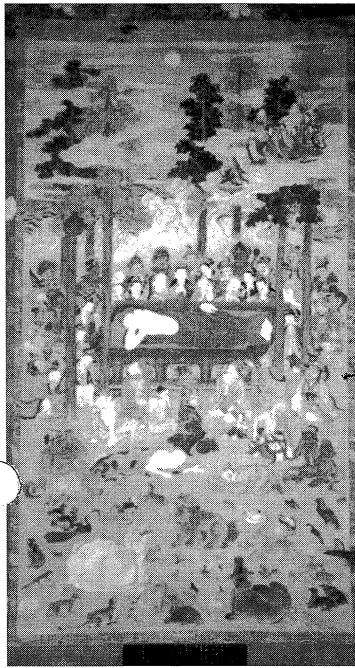
担当 泉区仏教会

平成十四年二月八日(金・友引)
に、泉区観音寺様を道場として市
仏連主催の第二十七回涅槃会が開
催された。

当日は暖天に恵まれ、増俗三百
人余が参集し、盛会裡に午後一時
受付、一時半法要、各位挨拶、記
念講演、反省会と無魔成満した。
担当の泉区仏教会(会長・曹洞
宗永明寺石田征史住職)は十二ヶ
寺が会員である。会場を提供して
下さった泉区新橋町の阿久和山観
音寺(梅田保彦住職)は今から四
百年前に創建された曹洞宗の古刹
である。ご本尊は行基作伝の聖観
世音菩薩で三十三年毎開帳の秘仏
である。境内は、広大で山門、本堂、
仏殿、鐘堂、庫裡、客殿と揃った
伽藍のたたずまいを見せている。
平成十年に落慶の仏殿には、スリ
ラン力から奉安の仏舍利と金色の
釈迦涅槃像、壁面の涅槃会、本尊

釈迦如来座像が祀られている。

都築哲信市仏連会長を導師とし
て、石田泉区仏会長、梅田会場主
を脇導師として泉区仏各師が職衆
となり、曹洞宗青年僧侶の助法を
得て、客殿玄関より外へ出て、仏
殿の参拝を兼ねて行道し、本堂正
面より入堂した。本同左脇に吊る
された涅槃図は泉区の浄土宗宝心
寺(丸地良信住職)所蔵の天保時
代の作である。林田専務理事の司
会進行の元、玄野副会長が開式の
言葉を宣した。三礼、献茶湯、献
香、三帰依文、導師啓白文、読経
(観音経・舍利礼文)、回向文、
関水維那和尚、普回向、三礼、退
堂。式典の部、都築市仏連会長、
横山敏明仏会長、鈴木敬一郎市
釈尊奉讃会会長、泉区仏教会会長
石田征史師が挨拶。二時四十分頃
から、獅子てんや氏の記念講演「ほ
とけに生かされて」が一時間ほど



なされた。話芸の職人さんだ。会
場を笑いの坩堝にさせて、みんな
のストレスを解消して下さった。
在家居士の真摯な態度と仏教研鑽
の内容に好感を持って、拝聴して
いた。川上敬吾市仏連副会長の閉
会の辞で散会となった。珍しく暖
景の一日、良い話で心もあたたか
く、ありがたい土産話や泉区仏の
供物(チャッパマンと饅頭)を貰っ
て、泉区仏や観音寺様等大勢の支
援、接待のご厚情を胸に皆様が家
路につかれた。心づくしの反省会
も五時十分頃、お開きとなる。
観音寺二十二世の梅田文丈師の座
右の銘は宝山禅師の「法を護り人
を安んずる」と寺記にある。皆様
ご苦労様でした。お世話になり、
ありがとうございます。広報報
スターも作成し、参加者の増員に
心がけた今回は、その効果も多少
なりともあったように見受けられ
た。

涅槃会啓白文

謹み敬つて啓く讃歎の一章
謹んで香華・灯燭・供物を供え、
經典を誦誦して、泉区仏教会並び
に横浜市仏教連合会の僧俗、相い
和して泉区新橋の聖地観音寺精舎
に集いて、大聖釈迦牟尼世尊の涅
槃会に讃歎するものなり。

恭しくおもひみるに、本師釈迦
牟尼世尊は今を去ること、二千五
百有余年、インドの地、カピラ国
ルンビニーの園に於て王子として
誕生さる。つとに世の無常人生の
苦悩に深く心を潜め、二十九歳の
時出家して沙門となり、勤苦精進
して三十有五歳でついに正等覚を
成ずるなり。宇宙の事理を悟る覚
者として鹿野苑に法輪を転じて成
道された。

以来、仏陀の説法は法の水となつ

講演要旨

「仏に生かされて」

獅子てんやさん

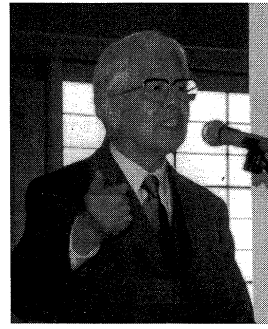
今、世の中がバラバラで、生き
様に目標がありません。しかし、
今日皆様方は涅槃会に参列され、
同じように手を合わせ、三礼し、
お経を唱え、同じ一つの心の中に
いられるということは本当にあり
がたいことです。この恵まれた瞬
間に生かされている理由を考えま
すと、それはお釈迦様と、後世の
各宗派の祖師様方のお蔭であると
思います。仏様のお力は誠にあり
がたいものです。心のよりどころ
とし、少しでも良い話を聞き、良
い生涯を送りたいという皆様の願
いのもとに、(お釈迦様が)この
場を集めて下さった訳です。
「こんにちは、てんやわんやで
す」と言っていた私が、このよう
な尊いお席でお話しできるとい
うことは、まさに仏様に生かされ
ているのだと思います。今の日本は
どうなつてしまふのか憂えており
ます。もう一度、昔の日本に帰ら
なければならぬと、年配の人は
思っています。私達は子供たちに
大切なことを教えてあげることが

て人々の心を潤すものなり。これ
は苦しめる者には大安を施し、苦
悩せんとする衆生に活力を与える
源泉として教導がなされた。

仏陀は最後に生まれ故郷を目指
して伝道の旅をされる。寿命を悟
られた仏陀は途中のクシナガラで
愛弟子阿難によつて沙羅双樹の間
に敷かれた床に、頭を北に向け、
右脇を下にして横たわり、弟子や
信者たちに見守られながら、安ら
かに涅槃に赴かれた。

その法灯は涅槃の後もさん然と
輝き遍く衆生を照らすものである。
伏して願わくは、遙かに末法の
今日にありても、仏法の教導に接
し、広大なる慈恩に浴し、大衆等
しくその加護を受けられんことを、
謹んで祈念するものなり。
維時 平成十四年二月八日
横浜市仏教連合会
会長 都築哲信 敬白

必要だと思いません。
三つ子の魂ということがありますが、私の父親は魚屋でしたので一日と十五日の休みには浅草などへ必ずお詣りに行きました。その



帰りに映画や芝居を見たのが子供心に刷り込まれて（芸の道に）つながってきたのだと思います。また、11歳の時に父親が亡くなり、浄土真宗の信仰の強い新潟の祖母に世話になり、道端の道祖神に自然に手を合わせる習慣が身につきました。14歳で小僧として三年間町工場で苦勞し、やがて戦争が始まり、徴用工として働きました。18歳の時に海軍に志願し、横須賀の海兵団に入りましたが間もなく終戦。日本の国はこのままで大丈夫になると思ひ、日本の平和を守るためにお巡りさんになりました。機動隊の分隊長まで行いましたが柔道で怪我をし、四年半で止め、どういふ訳か漫才の道に進みました。

よ」と言つて、れたので、家の近くのお寺の座禅会に遊ぶつもりで参加しました。
昭和62年12月20日、雪の降る日、始めての座禅会の時、

我昔所造諸悪業、皆由無始貪瞋痴 従身口意之所生、一切我今皆懺悔 という、今まで知らず知らずに私の口や身や心から出た自分の業（わざ）をお許し下さいという意味の経文をあげました。それ以来、お酒もピタッと止めました。結果的にそれが良かったと思います。

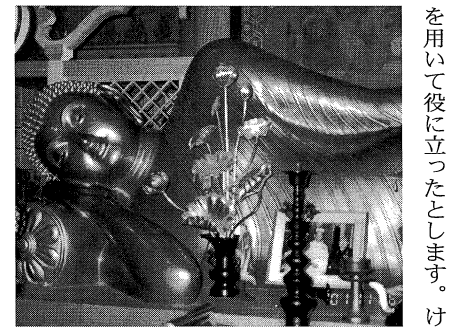
三ヶ月位経つた時に、坐禅中、周囲が見えず音のない静かな世界を体験し、ハラハラと涙がこぼれました。ご住職に聞いたら、「そんなものは何でもないんだ、えらそうなことを思うな」と言われ、ああそうなのかと思いました。皆様も是非、坐禅なりお経を読むなりお寺の中に入ってみてください。自分を楽しくさせて、自分を生かさせて下さる所だと思つていま

す。 本日はお釈迦様の亡くなられた涅槃会です。もし、この世にいらしたら是非お会いしたいですね。敬慕する気持ちは皆さんも同じだと思ひます。お釈迦様の教えがあればこそ、暗闇の提灯のように私たちの道を安全に照らしてくれているのです。法句経や観音様にも、「こつちへおいで、そこはがまんしなさいよ」という道しるべや方向づけの教えがたくさんあります。我慢、忍耐、精進ということや坐禅や合掌をすることもお釈迦様のお蔭です。お釈迦様の教え

で大切なことは、絶対に悪いことをしないで良い事をする事です。それには自分の心を清らかにしておかなければいけないのです。お釈迦様は八十歳で亡くなられましたが、その直前に弟子のアーナンダは「これから何を頼りにしていけばいいのだろう」と呟いたそうです。その時お釈迦様は、「いつも教えているではないか。私の灯りを供にしないさい。私の心を供にしないさい。己こそ己のよるべ。己を置いて誰によるべ。よく調べし己こそ、真に得難き己をぞ得ん。」（法句経一六〇番）と、さとされました。

私も八十歳になりますが、お釈迦様と同様に死を迎える時期が近づいています。これが諸行無常と云うことです。何年もテレビやステージに出ないと私の名前なんて忘れられてしまつていくのです。仏様はそういうことを見つめなさいと教えてくださっています。例えば、急流を渡るのに筏（いかだ）を用いて役に立つたといいます。

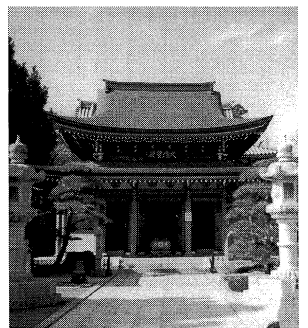
れど、内う岸に着いて山に登る時にはどんなに役に立つたものでも捨てなければなりません。諸行無常とはいつまでも背負つていけないで、捨てていくという事です。ですので、私もいつまでも「獅子でんやで！」なんていつても通用しない、捨て切ろうと思つています。



昨年、歯科医院の忘年会に招かれ、若い看護婦さん方にお話をさせていただきました。病院の仕事は、抜苦と与樂で正に菩薩の行いなんです。慈悲のお仕事をされていると話をしました。抜苦は「悲」、与樂は「慈」という仏さまの基本的な教えです。ただ単にいつくしみ、あわれむのではなく、苦しみを抜き樂を与えることを大切にしたいと伝えました。

また、人生には三つの坂があります。上り坂、下り坂とまさかです。まさかという坂が曲者なのです。先日、車に乗っている時に目の前の交差点で交通事故に遭遇しました。赤信号を見落としたのだそうです。交通にはルールがあること、そのルールを各々が守ることによって、自由で平和で安全な道が確保される訳です。この道は車道ですが、お釈迦様の教えは人道です。きまり（戒律）をつくつてくださっているのです。これを守つていけば、平和で人から恨みを買ふことも無く、他人から悪口を言われることもありません。五戒の一つに嘘をついてはならないというものがありますが、嘘をつくから国会もあんなことになつてしまつた。きまりを守れば何でもないこ

とが、今、きまりを守りません。どういふことなのでしょう。そのために自分で不幸を招いているわけです。大切なことは、「良い事をして悪い事をしてはなりません。それには淨い心で生きなさい。これが仏様の道ですよ」というきちんとしたきまりがあることです。法句経に「人は生まれると口に斧がはえる。おろかな者は悪口を放つてそれでもつて自分の身を切る」とあります。「教え」とは身につける基本的なものを持つということ。老いて学ぶことに遅いことはありません。ただやるかやらないかの意欲にあります。私は一昨年前（76才）から尺八を習ひ始めました。まだ音が出ませんが意欲を持ちつづけていきたいと思ひます。生きることの尊さとは、今、ここで楽しく恵まれて最もすぐれた生を受けている自覚が持つるといふことだと思ひます。「生死の中の善生、最勝の生なるべし」といふ教えがあります。仏様に生かされて今があると思つとき、最も恵まれ、最もすぐれた現在であると感謝しております。



（編集子要約）

秋の古寺巡礼記

京都・丹波・但馬方面

秋の仏蹟参拝旅行が平成十三年十一月十九日(月)～二十一日(水)まで、京都、丹波、但馬方面の七ヶ寺を巡り、実施された。

新横浜駅七時五〇分発のひかり号に三十三名の参加者が同乗。午前



撰丹境・永澤寺

三時頃の「星の雨」が降り注いだ。「しし座流星群」の天文ショウを見た、いや見はぐつたの会話が飛び交い、富士山もはつきりと見えた。京都駅で降り、貸切の観光バスに乗車、沿道のイチョウは既に黄葉、小粒の柿の実もたわわに実っていた。

十一時十分に上京区の日蓮宗本山の叡昌山本法寺を参拝。足利將軍による迫害に遭った「鍋かむり日親上人」が、本阿弥家という大檀越を得て、一四三六年に創建された。涅槃会館で御任職の法話を

拝聴した。第十日通上人に帰依した長谷川等伯筆の総堅十m、総横六mの巨大な紙本着色涅槃図(国・重文)を拝観した。普段はレブリカだが眼前のは本物ということであつた。絵図下方に二匹のコリイ

犬が何気なく描かれている。当時の国際港の泉州堺での見聞に由ると思われる。中二階のバルコニーからはお釈迦様の涅槃の姿が間近に見られる。

昼食は大徳寺近くの鉄鉢料理の泉仙で食べた。

午後は北区の臨濟宗紫野大徳寺へ行った。勅使門、三門、仏殿、法堂、方丈が一直線に偉容を誇り、松が多い。鎌倉末期に大燈國師が開創し、応仁の乱後に一休禪師が再興した。朱塗りの大きな三門に千利休が自身の木像を置き秀吉の怒りにふれ切腹したとの逸話や織田信長の本葬をした寺である。仏殿の大掃除を雲水たちが余念なく

していた。二十も在る塔頭の一つの大仙院を参詣。書院庭園を若和尚の名調子の案内で楽しく拝観。菓子とお抹茶をいただき、受付の尾関宗園老師が「横浜のお寺は裕福で余つテラーだ、こつちは困つテラーだ」などと気さくに話しかけてくる。言葉による接待をこれでもか、これでもかとされる寺だが、住職と面と向うと、それも寺門興隆の一才だと納得し、サイ

ン入りの著作や色紙を求めてしまう。枯山水よりも不思議な謎めいた魅力を感じた。モチの木の朱い実と真っ赤なモミジが美しい。

渋滞のため途中下車して、十五分歩いて右京区嵯峨の靈龜山天竜寺に三時に着く。境内も人出でこつた返す中、庫裡を背景に記念写真を撮る。大方丈で読経の我等を外の観光客が物珍しげに覗く。一九三九年に足利尊氏が、吉野で亡くなられた後醍醐天皇の後生菩提を弔うためと怨親平等の精神とで夢窓國師を開山として建立。法堂で天竜寺の和尚が案内を懇切にして下さつた。天井の加山又造画伯の五爪の「平成の雲龍画」の迫力と龍の左目を見て歩くと、龍が動き

一円相を描くのには息をのみ、驚かされる。曹源池の畔を歩き、モミジの紅葉に身が染まる気分でもミジ狩りも堪能した。

トロツコ電車に嵯峨野嵐山駅より乗り、保津峽を眺め二〇分で亀岡に到着。待機のバスに乗車し、

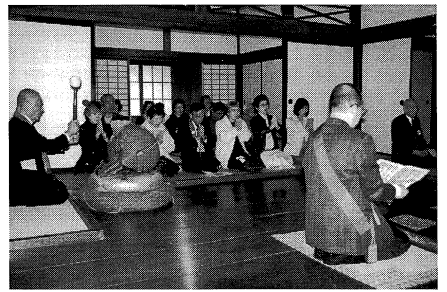
夜五時半に京都府亀岡市の湯の花温泉の松園荘に宿泊。夕食の席で自己紹介をし名前と顔が一致し、交流ができた。

二日目は朝八時過ぎに出立し、京漬物店に立ち寄つた。丹波の大江山が近いせいか、赤鬼や青鬼像が沿道に立ち置かれている。山霧が薄れ、両側は「照る山紅葉」の素晴らしい秋景色が続く。バス一台幅の山道が急に開けて、境内に撰丹境がある永澤寺(ようたくじ)に午前九時四十五分に到る。曹洞宗で約六百年前の開創で、大本山総持寺の直末である。釈迦三尊像は釈迦、大日、阿弥陀である。開山通幻禪師は活埋坑(かつまいこ)などの俊嚴の雲水教育でつとに有名であつた。通玄禪師が開山に関与した寺が八九〇〇ヶ寺に及ぶ。法楽、住職のご案内の後、客殿で茶菓の接待にあずかつた。海拔五五〇mに在り、今朝も冷えたが、石油ストーブが点火され、あ

りがたかつた。立替え以前の古い板戸には啄木鳥(きつつき)による穴がいっぱい開いていた。猪が日常茶飯事に出没し、チュウリツプの球根以外は皆、食い荒らされる。妙高閣のガンダーラ仏像十数体は全て本物で代々の住職が収集された。「ハンサムで格好いいわね」とは女性参加者の歓声である。本堂前で記念写真を写し懇切な渡邊住職夫妻に謝意を申し上げ、兵庫県三田市の禅道場の永澤寺を辞した。

福知山市のホテルで昼食し、午後三時頃に城崎温泉に到着。志賀

直哉が宿泊して「城の崎にて」を執筆した三木屋の前を通る。臨濟宗大徳寺派の万年山極楽寺に参拝。ご住職の話「山、寺号はまことにめでたい名前ですが、我々の日常は喜怒哀楽、四苦八苦の地獄みたいな生活です。本尊が阿弥陀如来で、奥に平安時代の観音像を祀ります。臨濟宗大徳寺派で約六〇〇年前の開創で、一休さんや沢庵さんが復興したと伝えられるが、鼻紙一つも残っていません。「来ぬ春を深雪の底にひきよせて冬ひとしほの出湯なりけり」と沢庵和尚伝の歌碑を後世の人が建てています。臨濟宗は本尊を定めず、所依の經典を決めません」。



出石・宗鏡寺(泥沢庵寺)

次にくつ近くの高野山真言宗末代山温泉寺を参拝した。城の崎温泉を開いた道智上人が七一七年に建立した寺である。山頂に本堂や城崎美術館があるそうだが、山裾の薬師堂前で勤行した。境内の手水鉢に流れているのは温泉であり、塩味をおびた湯であつた。

京都・大仙院



祈 護 法 安 人

神奈川県仏教会会長
横浜市仏教連合会顧問
曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231 0859 中区大平町九六
電話 六六一〇一〇一六六

横浜市仏教連合会会長
法華宗陣門流勸行寺住職

都 築 哲 信

〒220 0002 西区南軽井沢九
電話 三一一一三五五七

横浜市仏教連合会副会長
曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241 0822 旭区さちが丘五九
電話 三九一一二三七九

横浜市仏教連合会副会長
鶴見区仏教会長
臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230 0077 鶴見区東寺尾一一一八一一
電話 五七一〇一七〇一

横浜市仏教連合会常務理事
神奈川区仏教会長
曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒221 0057 神奈川区高島台一一二
電話 三二二一〇一九一

横浜市仏教連合会常務理事
瀬谷区仏教会長
真宗大谷派最勝寺住職

柳 沢 柳 丸

〒246 0021 瀬谷区二ツ橋町三三七一一
電話 三六二一六〇七二

横浜市仏教連合会常務理事
栄区仏教会長
高野山真言宗般若院住職

星 野 英 秀

〒244 0842 栄区飯島町二二四九
電話 三六二一六〇七二

横浜市仏教連合会常務理事
戸塚区仏教会長
曹洞宗福泉寺住職

岩 波 道 俊

〒245 0066 戸塚区俣野町五八五
電話 八五一〇一三四七

横浜市仏教連合会常務理事
泉区仏教会長
曹洞宗永明寺住職

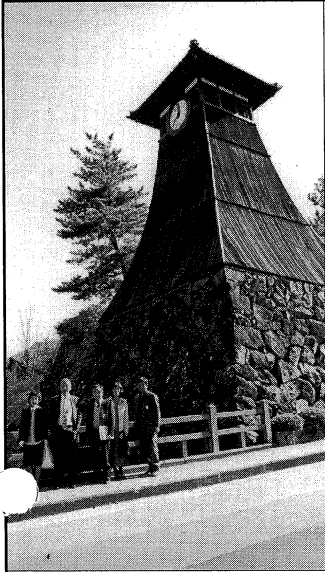
石 田 征 史

〒245 0003 泉区岡津町一六一六
電話 八一〇一四一〇六

横浜市仏教連合会常務理事
都筑区仏教会長
天台宗長王寺住職

山 本 信 行

〒224 0053 都筑区池辺町二八二七
電話 九三一〇一三六七



横浜市釈尊奉讃会事務局長
曹洞宗東照寺東堂

程 木 徳 明

〒223 0053 港北区綱島西一十三一十五
電話 五三一〇一七八三

横浜市仏教連合会専務理事
浄土宗見光寺住職

林 田 眞 成

〒240 0004 保土ヶ谷区岩間町二一四〇
電話 三三一〇六〇七

横浜市仏教連合会会計
浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒234 0056 港南区野庭町一八四三
電話 八四二一七二八八



横浜市仏教連合会会報担当
曹洞宗東泉寺住職

関 水 俊 道

〒245 0017 泉区下飯田町七四三
電話 八〇二一八〇九七

横浜市仏教連合会会報担当
真言宗豊山派西福寺住職

備 前 恭 忍

〒246 0037 瀬谷区橋戸三一二一二
電話 三〇一六一三四

- 事務日誌**
- 13 9・10 祝電 港北区惠念寺
 - 13 10・5 県慰霊堂(保土旭区)
 - 13 10・20 祝電 港北区専念寺
 - 13 10・28 祝電 旭区長昌寺
 - 13 11・5 県慰霊堂(鶴見区)
 - 13 11・5 役員会議(於四川)
 - 13 11・19、21 秋の仏跡旅行 京都・城崎方面
 - 13 11・26 涅槃会合同打合 (於 泉区観音寺)
 - 13 12・6 理事会・忘年会(於筑葉)
 - 13 12・12 会報54号依頼状発送
 - 14 1・6 弔電 金沢区禅林寺
 - 14 1・16 奉讃会日より発送
 - 14 2・8 涅槃会案内状発送 第27回涅槃会 (於泉区観音寺)

横浜市仏教連合会御用達
㈱ビーエヌ観光神奈川社長

真 川 明

〒240 0022 保土ヶ谷区西久保町一四
公園ハイツ二一八
電話 三三四一三四〇〇

横浜市仏教連合会顧問弁護士

遠 藤 隆 也

〒221 0022 (自 宅) 神奈川区白幡上町一八四
〒110 0015 (事務所) 台東区東上野二一八一七
電話 〇三三八三二二八九

14.2.28 会報第54号編集会議 (於東泉寺)

14.3.10 役員会議(於四川)

お知らせ

◎市仏連合会総会
14年5月21日(火)午後二時
会場 中区西有寺

◎春の仏跡参拝(東京多摩方面)
14年6月3日(月)

訪問予定 高幡不動・深大寺

投稿募集!

話題内容・形式を問いません。
区仏会長を通じてか、または、
直接会報担当までお願いします。

瀬谷区橋戸3-21-2 西福寺



大仙院・老師を囲んで

バスでの長旅で女性の方は大変に疲れたと申された。午後四時十分頃に「西村屋招月亭」で旅荘を解いた。都築会長、程木事務局長ら五人の一行は、早速に宿着に着替え、下駄を履き外湯温泉めぐりに出かけた。四つの湯場に入り、記念スタンプを押してきた。六時半に宴会、懇親の輪が広がり、深まつた市仏連、釈尊奉讃会の「城の崎にて」の夜であった。

三日目はホテルを朝八時半に出発し、日本海を見たいという声で予定外のコースを取り、日和山公園へ行く。右手向うに丹後半島が霞み、海岸端の小山を雲が越え、海に流れ降り、海面からは海霧が立ち昇り、棚引く。岩礁に安置されている小社が竜宮城の出現のように見えた。何とも言えない一期一会の絶景に感嘆の声が上がり、カメラのシャッターを切る音がしきりにしていた。それから海鮮朝

市場に立ち寄り、日本海の味覚をお土産に買い求めた。

但馬(たじま)の小京都と呼ばれる出石(いずし)の旧城下町に午前十時過ぎから午後一時半頃まで過ごした。山名氏に始まり小出氏、仙石氏の歴代大名の居城の出石城跡を訪ね、出石出身の沢庵禪師が一六一年に再興した臨済宗大徳寺派宗鏡寺(すきょうじ)にお詣りした。参道に面した願成寺の門前に安置の木彫のダルマ像二体の特異な風貌に魅かれて、皆足を止める。

頭に手拭いを被り作務衣姿の方丈様と交渉し、本堂内で灯明、香を点じ結願のお勤めをする。七ヶ寺全てで、快く点香や仏具を用意してください、本当に参拝の旅となった。仏縁に一同、感謝を申し上げたお顔でした。裏山の沢庵和尚造園の庭を巡回した。苔の緑にドングリが落ちていたり、黄や紅蓮のモミジの色彩が池面に映る、禅境、寂光菜土の中に居た。屋根があるだけの地つきの鐘を撞く。音響も最高に良く、癒された。

寺町を通り町立史料館や酒蔵、家老屋敷、辰鼓楼を見学し、花木屋で昼食となる。出石名物の皿



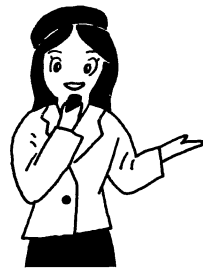
京都・本法寺

蕎麦を食べた。食後は自由時間で、人力車に乗り町の散策や白磁の出石焼窯元訪問などで過ごす。古い神社境内にイチヨウの黄葉が散り敷き、側溝にはきれいな水が流れ、日中は暖かく、青い空、白い雲、錦秋の山々の但馬の地を後に帰途につく。大阪伊丹空港を夜六時発のANA36便で羽田空港七時着。全員無事に各自、家路に向った。

「虚(むな)しく住(ゆ)いて実(み)ちて帰(かえ)る」の古師の言を総感想として引用させて

時局対策委員会報告
情報ネットワークに向けて

委員長 佐藤 功 岳



黄う
参加人員三十三名。住職八名、寺庭婦人四名。勸行寺、東照寺、長昌寺、東泉寺、宝珠院、正観寺、見光寺、徳善寺、大円寺、西福寺の皆様、お世話さまでした。

本紙前号(五三三号)では、広報委員のご尽力により、葬儀社との協議会の全録を掲載いただき厚く御礼申し上げます。

約三時間に亘る会議録をテープから起し、記事にすることは、大変根気と時間を必要とするところでございます。

お蔭をもちまして、協議会の内容は些細もろさず全会員にお知りいただけたことと存じます。

しかし、今回の協議会に際し、別送の本委員会から要点報告書にも触れましたように、出欠の返信さえなく、全く無視された左記の会社には、私共の誠意が通じなかつたことと解釈をし、今後の各聖が、お檀家の葬儀の折、重大なる関心を持って対応していただくことを期待いたします。

巨大なダムも蟻の一穴で崩壊するとされております。

些細なこととお考えでも仏法広布の障害に発展するかも知れませんので、重ねて注視をお願いいたします。

さて、今回の協議会の折、葬祭業者から、檀那寺がない葬家のためのネットワークを運営して欲しい旨の発言がありましたので、当委員会としては検討を始めました。

このネットワークが、機能すれば今日、私たちの評判を落下させている原因の一つが、解決できると考えております。

後日、各位に協力を依頼することとなりますが、その折には是非前向きにお考えいただきたいと考えます。

また、この協議会で葬祭業者か

らの発言の中に、「寺檀関係がうまく、細やかにいってれば、このような問題は生じないのではないですか。(要約)」

という点がありました。確かにその通りであろうと存じました。と同時に、このような発言をされるということに恥ずかしくもなつて参りました。各寺院は、多忙な中、それなりに寺檀関係に心をくだき、仏の教えを機根に合せてお伝えされて来たと考えます。

しかし、インターネット、マスメディアの発達した今日では、草の根の布教は評価されないのでしょうか。

私はそのようなことはないと考えますが、私たちが目標を檀家ばかりでなく、急増してきた未信徒にも拡大する方法を取らねばならないのかも存じます。

例えば、市仏連にて新聞等に意見広告を出すとか、ホームページを運営するのも方法でしょう。

商業主義に邁進する業者に対向する訳ではありませんが、正しい仏法広布のためにも、又、一般社会からの誤解を避けるためにも、こうした方法を検討、推進していかなければならない時代に来ていると痛感いたしました。

会員寺院からのご意見も賜りたく考えておりますので、是非お寄せ下さい。

昨年夏の協議会無連絡欠席社 くらしの友・ジャクセン 横浜祭典・横浜北クミアイ

話 材 紹 介

不景気、リストラなど社会的要因で人心劣化、犯罪が横行し、警察官の不祥事も続発し、検挙率も低い。

寺院も狙われ、被害事件が報道される。ここぞとばかりに警備売りの会社からセールスの電話がよくかかってくる。そこで今号は事例と防犯システムの現況や是非を取り上げた。

被害事例

市内の某寺院に夜七時頃、台所口で物音がするので、住職夫人が開けると外国人らしい数人の男が力ネ、カネと脅迫する。粘着テープで夫人と子供が縛られ、三百万円が強奪された。また昨年暮れに南部の方の某寺院に強盗が入り、五百万円を渡した。午前〇時頃に訪問者があり、住職夫人が檀家の弔いの急報かなと思ひ、戸を開けたら、強盗だった。緑署は二月七日、住所不定、無職の男(39)を強盗傷害の疑いで緊急逮捕した。午前一時五十分頃、緑区の某寺で賽銭箱から約千円を盗んだ上、気づいた住職ともみ合いになり、住職の左手に一ヶ月のけがを負わせた。旭区の某寺院は昨年十二月二十一日頃、本堂の大ガラスの旋錠部分が石か何かでぶつけ割られ、賽銭箱が荒され、約四ヶ月分の相当額が盗られた。筆者の所も、昨年未の午前一時から六時の間に鋳物製の重量のある賽銭引出し付き外陣香呂台ごと盗まれ、五百円くらいしか入っていなかった。五日

ほどして、近所の畑の隅に放置されているのが発見され、修理塗装に十数万も払った。番犬の鳴き声も聞こえずに寝入って、数人がかりで物音もたてたはずなのに気付かなかった。

月刊寺門興隆の記事。「貧寺の当山も泥棒にやられた。深夜、本堂と書院とを結ぶ廊下にあるアルミサッシの窓ガラスが割られ、やすやすと力ネがあけられてしまった。賊は書院から帳場、庫裡を家捜しした。妙な物音で寺族が庫裡の明かりをつけた時、まさに侵入してきた窓から逃げ出る後ろ姿、

寺院のセキュリティ

追っかけたが脱兎のごとく無駄だった。警察は役に立ちません。(目立たぬ引き出しなのに)ここ数日いただいた法事の布施の数十万円がやられた。ガラス屋さん「こんなサッシじゃ無防備そのものだよ」と言われ、格子をつけた。費用は十万円。」

当市に隣接した市外の某寺院では、朝の勤行中に庫裡に侵入し、現金を盗まれた。泉区の某寺院では、昼間、玄關から庫裡に侵入。家人とばかり顔を合せたところ、「人と待ち合わせをしている」とか意味不明のことを言い変人を擬装して、外に追い出したところ、事前にエンジンをかけてばなしにしてあった車、逃走したという。

港南区の某寺院では、複数で昼間やって来て、一人がお墓を案内してほしいと呼び出しているスキに、残りが室内を物色するという手の込んだもの。いずれも、事前によく家の動きを調べている知能犯が目立つ。

警備事例

市内の某寺院、夜中の二時頃に呼び出しホーンが鳴り、警察署員が立っていた。警備会社から盗難の通報が入ったので来たそうだが、突然なのでパジャマのまま一時間も応対し冷え切った。セコム会社と契約を結んでいる。年間百万ほど払っているという。このように一般には、泥棒が本

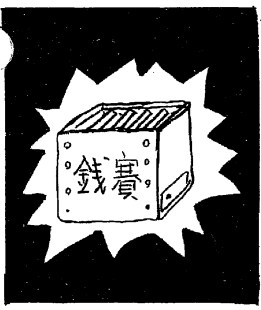
堂に侵入、自動キヤッチで警備会社へ連絡がいき、地元警察に通報され、警官が来て庫裡で何も知らないで寝ていた住職が起こされ、事件を知るというケースが多い。庫裡の住職に直接知らされると、犯人と対面し危険な目に合う可能性がある、ということそのようなシステムになっている。空留守で設定すると、猫も飼えない。機械が反応し、連絡が来るからだ。時には、スイッチを入れて本堂に入って、わざとやる訓練も必要だとの事。

誤作動を何とかしろと注文をつけた。女性社員が再度来寺して言う。社長に貴寺の件を話したら、そんな誤作動なんかにかまっていられないか、売ったらおしまい。アフターなんかしなくてよい、との返事だった。こんな会社はダメだと思い、私、辞職してきた。和尚さんも契約を解除した方がよいと言った。会長の寺へも、数年前に犯人が入り、本堂のサッシの鍵の部分のガラスを切り侵入しようと、その途端に鍵の処にセットした防犯ブザーが大きく鳴り響き、泥棒は退散した。

次にある寺院のセキュリティシステムを紹介したい。ご厚意に感謝したい。

警備会社による機械警備と独自の警備(ローカル)の折衷(A寺)

誤作動を防ぐためとコストの削減から、本堂と別棟の納骨堂のみ警備会社により警戒(防犯・防火)する。庫裡は要所に赤外線光線を張り、侵入者に警報音がけたまましく鳴る。また、非常ボタンを各所に設置し、非常時には警備会社を経て警察に通報される仕組みになっているという。その他、境内の要所に人感センサーを設置。本



堂前の賽銭箱付近ではチャイムが鳴るようにしているとか。ご住職の話では、夜間に急に点灯するだけでもかなり効果があるのではという。警備会社の導入について、経費がかかるので住職は見合わせていたところ、お世話人から「住職は忙しくて寺にいない事が多いから、女子供のためにも万全を期した方がよい」と説得されたという。

- ・機械警備設置費四十万円
- ・機械警備管理費月額二万円
- ・人感センサー一基三〜八千円
- ◎家庭用リース契約と買取り式補充感知機器の設定(B寺)

留守になる時と在宅時との切換を行い、在宅時の庫裡内についてはマグネット式を探り入れて誤作動を防いでいる。この場合はセツト忘れへの対応がないため、注意が必要である。その他、本堂の床下へ買取り式の火災感知センサーを装備とのこと。

- ・設置費三十万円
 - ・管理費月額二万五千元
 - ・火災感知センサー一基十万円程
 - ◎本堂と庫裡の接合部分を法人契約、生活部分を家庭用契約(C寺)
- 建物の規模が大きい場合、監視カメラ(ビデオ録画可)付きの大きかりなシステムを導入し、生活部分については家庭用のシステムを別契約で結んでいる。
- ・設置費(法人のみ約百万円)
 - ・管理費月額(法人のみ約十万円)
- これらの例では、寺の実情に適った工夫の契約を結んでいると言える。